

2010年（平成22年）度第3回常務理事会記録

日時 2010年（平成22年）3月27日（土）12:00～14:30

場所 岩手医科大学循環器センター10階 同窓会室

出席者：内山安男（理事長）、牛木辰男、岡部繁男、河田光博、藤本豊土（以上常務理事）、竹田 扇（常任幹事）、天野恵子、中村 聡（以上、口腔保健協会）

<理事長挨拶>

一般法人移行に関する談話があった。

I. 会議記録の確認

2010年（平成22年）度第2回常務理事会（平成22年2月20日開催）記録（案）

II. 報告事項

1. 庶務報告（岡部庶務担当理事）

(1) 会員異動報告

平成22年2月分（入会者 正会員 4名、学生2名、退会者 正会員 17名、学生1名、学術評議員 1名、賛助会員 1名）

逝去会員：伊藤 良作氏（昭和大学教授/正会員）平成22年1月23日逝去（享年59歳）

(2) 会費納入状況（長期未納者の除名について）

3年未納者、4年未納者に関して報告が行なわれ、回覧資料に掲載された未納者名簿を今回の大会会場で掲示する事を報告した。また、これに先立ち電話督促を行った事などが報告された。定款に依れば2年を越えての未納者は除名とあり、これに基づき総会後にも未納が続く者は除名とすることにした。

(3) 学会宛文書類について

通知・依頼：医歯薬出版（株）より「『学会案内』アンケートご協力のお願ひ」他12件の通知・依頼あり。

書籍・定期通信等：日本医学会より「第137回日本医学会フォーラム”抗体両方の新しい展開”」他6件あり。

(4) 外科手術手技トレーニングの報告書について

資料に基づき幾つかの要点が説明された。特に解剖学会会員や篤志献体団体が献体を用いた外科手術手技トレーニングに対してどの様な認識を有しているかに関して、アンケート結果に基づいて説明があった。また「献体を用いた外科手術手技トレーニング」に関して厚生労働省研究班「サージカルトレーニングのあり方に関する研究班」がガイドライン作成を行う予定である事、解剖学会にその委員候補の推薦依頼が来ている事、が報告された。その際に解剖学会としては将来計画WG、解剖体委員会、倫理委員会の各委員長をその候補として推薦する旨を答申した。更に、河田理事より篤志解剖全国連合会席上で外科手術手技トレーニングに関して篤志家の方からさまざまな意見表明がなされたことについて報告があった。

将来計画に関するワーキンググループ中間答申について

資料に基づいて説明があった。これを受けて内山理事長より中間答申の内容に沿った今後の改善を推進したいので意見を出して欲しい旨提案があった。また中間報告の内容を一般会員にも閲覧可能とすべきであることが提案され、中間答申をHPで公開し、パブリックコメントを募ることを今回の総会で八木沼同WG委員長から説明することにした。

(5) その他

2. 編集報告（藤本編集担当理事）

(1) 解剖学雑誌及びA S I刊行報告

投稿に伴い問題が生じた最近の事例が紹介され、対応について検討中であることが報告された。

(2) その他

3. 企画・渉外報告（河田企画・渉外担当理事）

(1) 第115回日本解剖学会総会・全国学術集会の準備状況について

資料に基づいて説明がなされ、演題数が過去5年間で最多である事が報告された。また生理学会との共催、運営予算に関する現状が報告された。

(2) 日本医学会選挙結果について

資料に基づいて高久史麿会長以下の役員が選出されたことが報告された。

(3) その他

2011年の日本医学会総会に関して報告がなされた後、2015年の総会が京都地区を中心として開催

される旨が紹介された。

4. 会計報告（牛木会計担当理事）

(1) 平成22年度中間決算書について

資料に基づいて中間決算の報告が行われた。

(2) その他

III. 審議事項

1. 新入会員の承認について

新規入会者のリストが提示され、全件承認された。

2. 賛助会員の承認について

新規入会者のリストが提示され、全件承認された。また、賛助会員の登録は担当者名でなく、会社名に変更することが望ましいとの提案がなされ承認された。

3. 教授就任による学術評議員について

2件の申請があり、1件は承認された。別の1件は資格審査が必要であるという結論に至り、保留とした。

4. 平成21年度決算および業務監査報告の件

牛木会計担当理事より会計監査が3月16日に相磯、渡邊両監事のもと八重洲倶楽部で行なわれた旨が、報告された。この中で、一般会計については、名簿刊行に関わる一時的な経費を除くと、ここ2年で赤字がほぼ解消された旨が説明された。一方、解剖学振興基金会計の収支については、現在持続的な赤字会計であることから、繰越額が長期的に大きく変わらないような工夫、たとえば一般会計への繰り入れ額を調整すべきかどうか、などが議論された。これに関して口腔保健協会の天野氏から、継続して調査を行う旨、説明された。

5. 平成22年度予算の件

資料に基づき説明がなされた。そのなかで、名簿頒布収入は前年度の未収金として扱い平成22年度には組み入れないこと、科研費が不採択であった場合の対処方法について、具体的な説明がされた。また支部活動費、海外交流費の今後の取扱いに関して説明があった。

6. 平成22年度総会・学術評議員会資料および議事進行の確認

資料に基づき説明がなされ、奨励賞授与式、名誉会員表彰式が総会に引き続いて行われる旨が説明された。また口腔保健協会中村氏より資料8に誤植があり、会員数2,097名、過半数1,049名に訂正する旨が報告された。総会での八木沼将来計画WG委員長の報告は、倫理委員会のあとに入る事が承認された。

7. 一般社団法人への移行と定款案について

別添資料に基づいて説明がなされ、諸般の条件を鑑みて公益法人ではなく一般社団法人に移行する旨を総会で提示することが提案され承認された。また、移行計画に関する日程が説明された。移行に伴う新役員選挙、罰則規程の継承、支部毎の学術評議員割当に関して質疑応答がなされた。学術評議員割当に関しては、現行の学術評議員のシステムを維持出来る様に規約を改正して行く旨が確認された。

8. 奨励賞選考委員会の人選について

資料に基づいて説明が行われた上で、全員が承認された。また選考委員の専門分野の偏りに関して議論がなされた。この中で6分野各2名という規約が確認され、これに沿った人選が行われている旨が確認された。

9. 奨励賞規約改正案について

奨励賞の募集広告を『解剖学雑誌』に加え学会HPにも掲載するとの変更が確認された。また応募年齢制限に関しては、「申請年の4月1日現在に於いて39歳未満を満たしているもの」とする事に決定した。

10. 未収金の扱いについて

全国学術集会の会計報告を可及的速やかに行う提案がなされ承認された。前回問題となっていた未収金（投稿料）に関するその後の経緯に関して説明がなされた。

11. 次回役員会の日程について

平成22年度第4回常務理事会 6月19日（土）13:00～ 東京大学

平成22年度第5回常務理事会 9月11日（土）13:00～ 東京大学

平成22年度第6回常務理事会 12月11日（土）12:00～ 八重洲倶楽部

平成22年度第3回理事会 12月11日（土）14:30～ 八重洲倶楽部

以上の日程が承認された。

12. その他